



# 今井小だより

横浜市立今井小学校  
令和2年 6月 30日  
学校だより 7月号

学校教育目標 : かがやいている子「自分大好き!今井大好き!」

## 今年度の取り組み

学校長 森脇 信行



帰ってきた昇降口のツバメ

梅雨の季節となりました。6月から分散登校で始まった学校も少しずつ平常に戻り、毎日子どもたちの元気な声が聞こえてきます。学校では教室の座席、手洗い場などの順番待ちの間隔など三密にならない日常を体験しながら、子どもたちは元気に生活を送っています。7月からは給食が始まり、子どもたちの学校生活も新たな段階に入ります。社会全体が平常に戻る中、「ニューノーマル」な学校生活への移行を模索し続けていく所存です。また、今年度は創立140周年の年として、記念誌の発行、記念品の配

付、式典・祝賀会開催などの周年記念行事を予定しておりました。そういった中、感染拡大による健康被害、長期にわたる学校の臨時休業、夏季休業の短縮などの理由で、本事業の中止または来年度へ延期したほうが良いという声もありました。しかし、今後予想される現状や、「ニューノーマル」を構築していくことが求められることを鑑み、3密を避け、飛沫や接触による感染拡大が起きないように最大限工夫した新たな式典を企画し、実施する方向で考えております。詳細は未定ですが、先日、お配りした年間行事予定表の通り、10月31日(土)に式典と今リンピックを合体させたようなフェスティバルとして、行うことを検討しております。今後の社会動向によって、大きな変更がまだあるかもしれません。ご理解とご協力の程、宜しくお願いいたします。

さて、今年度から小学校において導入された「プログラミング教育」について少し紹介いたします。小学校のプログラミング教育は、自分が意図した一連の活動を実現させるために、取り組みを分解したり、修正したり、繰り返したりして、論理的に考えていく力を伸ばすことを目的としています。これらの力は将来どのような職業においても、また家庭生活などにおいても普遍的に求められる力であると思います。テキスト言語を入力するものではなく、課題解決にコンピューターが活かされていることを学び、実際にその過程を体験することが主な内容です。「プログラミング」という教科が新設されたわけではありませんし、教科書もありません。私たち教職員も教育の大きな転換期であることを念頭において、初年度、一緒に学ぶつもりで取り組んでまいります。

